

あきる野の自然の恵みは、山・里・川の環境が広い範囲で存在していることではないかと思えます。これらの環境はどれも大切に、存続には人間の行いが大きく左右してしまいます。

様々な環境が揃っているおかげで、自然において大変重要な役割を果たすタカなどの猛禽類を、市内では数多く確認できます。時には狩りを行い、時には繁殖のために営巣するものもいます。

日本の自然の未来に繋がるように、猛禽類に関心を持ち、守る必要があることを知ってもらうため、ここでみなさんにあきる野のタカを紹介します。

### トビ



トビはあきる野において最も普通種で、複数のつがい繁殖します。1年中、特に河川敷などの開放的な環境でよく飛び回る姿が見られます。

&



### ノスリ

ノスリは市内の広い範囲で見られます。ターゲットにする獲物は幅広く、あまり環境にこだわっている印象はありませんが、見通しのよい開けた場所で多く見られます。

### ハチクマ



都内においては、平成に入ってから繁殖の情報はありませんでしたが、レンジャーの調査で2011年に市内での繁殖を確認しました。その後、あきる野市などの西多摩エリアで繁殖するつがいを数回確認しています。この地域では、個体数が非常に少ない上、森林性の傾向が高いために発見しにくい猛禽類です。ハチの巣を狙うハンターである以上、人間にとってはとても頼もしい存在であるに違いありません。

### クマタカ



自然界では欠かせない捕食者で、市内で数年に一度繁殖が成功する貴重なタカです。トビよりも大きく、タカ模様がはっきりしている大型猛禽類で、人が少ない奥山の自然豊かな森林に生息します。基本的に近くで目にする機会は少ないと思いますが、山の頂上などで静かに休憩していると、たまに出会うことがあります。

### ツミ



&



### ハイタカ

両種は小型で、特に市内で繁殖するツミはハト位の大きさのため、気付かれることは少ないのですが、河川敷や市内の緑地～奥山まで広く生息しています。小さく美しく、小鳥などを狙う瞬間は市街地でも見ることがしばしばあります。

### ミサゴ



年によって、主に秋の間に少数があきる野の河川敷に滞在します。魚を狙う名ハンターで、人間にとっては「好き嫌い」が分かれるかも知れませんが、狩りをする姿はダイナミックで大変魅力的です。

## 姿を消して行く貴重なタカたち

### オオタカ



幼鳥

成鳥

タカが1羽・・・あの有名なオオタカは、約10年前まで市内で少なくとも4つがいが繁殖していました。しかし近年、そのつがいは数を減らしたり、繁殖に失敗したりする例が目立っています。今年は、巣立ちの確認ができたのはこの1羽のみでした。なぜか、瞳にたくましさと共に寂しげな表情が感じられるのは気のせいでしょうか。

### サシバ



里山の王子のさよなら？ サシバは里山環境のシンボルです。これまでモニタリングしたつがいは毎年繁殖していましたが、3年前から繁殖が失敗し続け、雛が襲われる事態など、様々な影響があったことを確認しました。ついに今年にはサシバのつがいが飛来しなくなりました。

現代の自然環境の悪化を示すバロメーターであるサシバの保全のため、里山環境の改善や、農業への支援など、様々な形での対策が必要と考えています。

## タカの大イベントは、これからの秋の渡り

秋の渡りがスタートする頃です。越冬地を目指し南下するサシバ、ハチクマやノスリなどの猛禽類がこの地域を渡ります。主に9月中旬から10月上旬までがピークですが、種類によっては8月中の早い段階で移動し始めるものや、11月に渡るものもあります。多い年のピーク頃は、1日の観察で合計数百羽を超えることもありますので、双眼鏡さえあれば、猛禽類を観察するには絶好の時期です。



サシバの「鷹柱」 沢山のタカが群れて上昇気流に乗って渡る前の瞬間です。旋回する姿は、個体数が多いほど迫力が増し、近くで見ることができれば、言葉にできないくらい素晴らしい瞬間だと思います。



タカ以外も！ 同じく猛禽類であるハヤブサの仲間もあきる野に生息し、渡りの時期で数が多くなるため、出会うチャンスが増えます。(写真はチョウゲンボウ)

### たまに、珍鳥

過去に1度だけ、この地域では珍しいアカハラダカ(ボロ写真☺)を確認しました。まれにチュウヒなどの希少種も市内に現れたとの情報が寄せられています。

